

研究テーマ 鑑賞教育の充実（対話型鑑賞の実践について）

- 1 実施期日 平成28年2月12日（金）10:50～16:30
- 2 実施場所 大山町立名和中学校
- 3 アドバイザー 武蔵野美術大学 教授 三澤 一実 先生
- 4 研修内容
公開授業①（3年B組）10:50～11:40
公開授業②（3年A組）13:35～14:25
講演会 15:00～16:30

対話型鑑賞「旅するムサビ」の授業を参観し、対話型鑑賞によって作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取る発問の工夫について学ぶことができた。作品についての見方を深め、自分の価値意識を話し合うことで、生徒が新たな価値観や美意識に気付くということが発見することができ、大変有意義であった。授業後の生徒の感想には「最初は作品について自分から話すのに緊張したけれど、どんどん作品を鑑賞して、みんなと意見を交換していくうちに、気付きなどを発表するのが楽しく感じられた。」と、他者との交流によって作品の見方が深まる楽しさがみられた。また、「使うものが写真だったり、ろうそくだったり、表現する方法は僕が思うものよりもっとたくさんあった。自分の気持ちを表現するにはこんなにも方法があるのだと、表現の自由さを実感した。」と、美術表現の多様性と表現方法の工夫を、実際の作品に触れることでより感じた生徒もみられるなど、生徒にとって新たな発見の多い授業となった。



講演会では「これからの美術教育を考える」という演題のなかで、社会と美術の関わり、美術で育てる創造性や個性について等、学校教育の中でなぜ美術が必要なのか、美術教育が目指すものが何か追求できる内容だった。生徒の個性や創造性を伸ばしていくために、



日々の授業が「型」の教育になっていないか、自己の実践を振り返るヒントも頂いた。また、武蔵野美術大学が行っている「旅するムサビ」の活動の紹介があり、公開授業で見た実践をさらに深く受け止めることができた。そして、それらの活動は、今後の私たちの実践に取り入れ活用していくことができる内容であったと確信できる研修となった。